

2018年度の取組み
 かながわボランティア活動基金 2 1 協働事業負担金対象事業

事業名	「食」と「地域」をつなぎ神奈川から貧困をなくすための K-Model 構築事業
団体名	特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川
県協働部署名	福祉子どもみらい局子どもみらい部子ども家庭課 福祉子どもみらい局子どもみらい部子ども支援課 福祉子どもみらい局福祉部生活援護課 県土整備局建築住宅部住宅計画課 環境農政局環境部資源循環推進課
事業期間	平成 30 年 4 月 1 日 ～平成 31 年 3 月 31 日

1 個別事業ごとの進捗状況

事業 1	事業 1 多機関連携による K-Model 推進事業
(1) 目標	生活困窮者等支援と食品ロスを改善するため「食」と「地域」をつなげるネットワークをつくり、持続可能な食品循環の仕組みを構築する。
(2) 実績	<p>◆ K-Model 周知のための説明・広報活動</p> <p>① 企業、団体など取組み説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年 2 月の茅ヶ崎市主催の空き家を活用した取組み事例発表から、大妻女子大学の先生からの紹介で、10 月 13 日日本家政学会家族関係学部会にて公開シンポジウムにて事例紹介を実施。「多世代共生のまちづくり」での空き家活用と中間支援の役割について報告し、約 200 名の家族学会関係者が参加。 ・ K-Model 紹介パンフレットと水切りネットを組入れ広報。1 年間で約 2000 部配付。 受取り側の関心が高く、食品ロス削減を環境負荷の観点から考えていただく良いきっかけとなった。K-kode1 専用の水切りネットの作成を検討し、30 年度は、手作りによる K-kode1 を説明したシールを貼って広報実施。 <p>② 協働部署関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月 25 日子ども家庭課主管の児童扶養手当市区町村事務担当者会議にて取組み報告、30 名。 ・ 7 月 10 日住宅計画課主管の平成 30 年度第 1 回空き家対策行政実務者会議にて取組み報告、60 名。 ・ 7 月 26 日、8 月 2 日、10 月 18 日神奈川県主催（子ども支援課）、逗子市、厚木市共催による「子どもの居場所づくりセミナー」開催。「子どもの居場所づくり 取組み事例と工夫」のタイトルで事例報告を実施。相談コーナーには 3 日程あわせて

	<p>11組の居場所づくりに関する個別相談に対応。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月7日、第2回かながわ子どものみらい応援団マッチングフォーラムにてブース出展、相談対応。K-Modelパンフレット200部配布。 ・2月5日神奈川県（子ども支援課）と秦野市共催の子ども支援フォーラムにて、事例発表を実施。 <p>③県民向け・食品ロス削減啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月19日、当法人会員のNPO法人スーリールファム主催「2018春フェス！」にて、K-Model広報活動。約100名の来場者にK-Modelパンフレットを配付。10月13日、同法人主催「秋フェス」にて約100名に広報活動を実施。 ・6月9日・12月9日・3月9日、当法人主催「青空マーケットINあさお」にてK-Model紹介、フードドライブの実施。もったいない宣言に計514名参加。 ・8月12日、市営地下鉄センター北駅にある商業施設ノースポートの夏祭り出店。270名参加。当法人会員によるもったいない紙芝居の披露、環境に関するクイズ実施。 ・10月20日、おひさまフェス×星空上映会 in かわさきにて、もったいない宣言と当法人会員による紙芝居実施。パンフレット配付は300部、宣言参加者は45名。 ・11月3日、茅ヶ崎市の市民ふれあい祭りにて、もったいない宣言実施。300部パンフレット配付。 ・2月11日、かながわボランティア活動推進基金21情報交換会主催「かながわボランティアフェスタ2018」にて当法人会員による紙芝居の発表と、ブースでの食品ロス削減啓発活動と、フードバンク横浜と連携したフードドライブの実施。 ・2月16日、消費生活課主催「地域で消費者にかかわる活動をすすめるための交流会」に食品ロスをテーマに事例報告実施、30名。 ・3月7日、大倉山記念館で「のんびるフェスタ」にて「もったいない宣言」を実施し89名が参加。個々の取組みを共有することができたことで参加者から好評を得た。 <p>◆ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月11日かながわ生活困窮者自立支援ネットワークと当法人の共催による情報交換交流会を開催。参加37名。基金事業として実施し、協働部署4課と基金事業課も出席された。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・10月17日、神奈川県フードバンクの連携をつくるため、県内でフードバンク活動を行う7団体に呼びかけ「神奈川県フードバンク連絡会」を開催。各団体の活動範囲や食品の情報共有の必要性を話し合った。 食品提供の情報があるたびに、双方の運営範囲や特徴を尊重しながら当法人でコーディネートを実施。
<p>(3)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・K-Model 周知のための啓発活動は、食品ロス削減の取り組みを広報の入り口とすることで、県民や地域活動団体、支援団体等へ広く伝わりました。また、協働部署関連の会議出席やセミナー等での登壇、当法人の基金専用ページ設置等、広報活動を様々な場面で展開したことにより、「食品ロス削減」「空き家活用」「子ども支援」「貧困」といった課題から、実践者や専門家につながる機会が増え、K-Model の担い手や支援活動へと進化。 ・広報活動が活発化したこと、事業2ですすめる法人主催企画の定期開催等により、ネットワーク構築がさらに具体化しました。大きな事例として、川崎市武蔵新城での若者支援・子ども食堂・寺子屋を実施する3団体とひとり親支援、フードバンク団体支援、各団体の中間支援を行う当法人で、ネットワークを形成しました。この事例をモデルとして、リーフレットを作成。横浜市桜木町でも同様な動きがあり、K-Model 構築の具体的な動きとして発展の兆し。 ・大手スーパーやメーカーが食品ロス削減や社会的な取組みとして、フードバンクへの食品提供や、フードドライブ実施につながり、一箇所のフードバンクで対応しきれない食品の提供相談などは、当法人を通じてマッチングを行い、効率よく食品を活用する流れができてきた。またフードバンク連絡会から、各フードバンクが連携して食品情報の共有の形が形成。 ・各イベントを通じて、活動する団体がフードドライブを実施するなど、食品ロスを生まない、食品ロスの活用に積極的に関わるようになり、課題としていた、保管場所・お届け方法(ボランティア・配送費)も地域ごとでのマッチングにより、できるだけ負荷を少なく引き取り・保管を実施している。 ・シングルマザー企画・子ども食堂や空き家の活用

	<p>など、子ども支援の分野で協働部署との連携が推進。市町の関連部署からの相談や、かながわ子どものみらい応援団のイベントの交流ブースを通じて実務的な相談の対応を行い、小田原・秦野・平塚・海老名・藤沢・茅ヶ崎・川崎・横浜など、エリアが拡大。</p>
	<p>ウ) この事業の課題と対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな支援のネットワークを各地に広げていくためのモデル事業として展開し、具体的な支援と自主的運営になるための食品や運営力・資金力の確保が課題です。 ・安定的な食品確保では、フードバンクかながわの設立により、一定の食品提供ができること、また運営力・資金力を得て持続可能な事業とするために、フードバンク団体の複合的事業として、ビーバーリンクをモデル事業として展開して実績を重ね対応します。

事業 2	事業 2 地域FB等支援事業
(2) 目標	<p>企業が安心して地域FBや子ども食堂に食品を提供できるように地域FB等の運営に必要な情報提供や中間支援を行う。</p>
<p>(2) 実績</p> <p>※事業の実施によって生じた結果を、数値等により箇条書きで記入してください。</p> <p>※この欄に入りきらない場合は、別紙も可。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域FBや子ども食堂等学習会の実施・運営支援 ・5月23日フードバンクかながわ視察交流会&フードバンクかごしまによる学習会を実施、19名参加。フードバンクかながわの施設見学と説明、フードバンクかごしまが取り組む地域の備蓄機能としてのフードバンク活動について事例紹介。 ・ひとり親家庭の支援企画は、空き家を活用したフードバンク活動拠点「三ツ沢風土生活感」を借り、4月・5月に実施。一般の参加者がなく、9月24日・10月8日・11月23日・3月21日、当法人事務所のある新横浜にて実施。会員による癒し体験・家計相談・子どもの遊び場コーナー実施。4回合計で支援対象者19組、応援スタッフ33名参加。 ・当法人が施設管理を受託している茅ヶ崎市内の施設において、若者カフェ及び就労相談を多文化共生教育ネットワークかながわと一緒に毎月3回実施。 ・4月～3月の若者カフェ参加者は合計●名。県立茅ヶ崎高等学校定時制の先生も定期的に参加。生徒への声かけをご協力いただき、毎回生徒2名が参加。就労に困難を抱える若者やLGBTの若

	<p>者など参加。ちがさきサポートセンター職員や企業で若者支援を検討している方も視察を兼ね運営に参加するなどネットワークが拡大。無料のギター教室実施定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者カフェ参加者が中心となり、同会場にて、8月13日～17日、夏祭りを実施。参加者528名。K-Modelの広報活動を実施しました。 ・当法人にも立上げ相談があった医療法人が運営する子ども食堂が海老名市社家に7月よりオープン。広報相談、お米の手配対応。当法人のシングルマザー企画に口腔ケアで連携することも予定。 <p>◆地域FBや子ども食堂等食品配付の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクにいがたやフードバンク広島、ふーどばんく東北など各地域の事務局と懇談。取組みと支援体制、課題を共有しました。 ・フードバンクかながわと「寄贈品に関する合意書」を取交しました。これにより当法人の企画の際など必要な場合に食品を提供いただく流れができました。 ・子ども食堂の食品衛生の部分で、協力関係がある協働同組 JASMEQ 食品製造安全管理認証を実施する企業の広報誌に当法人の取組みが紹介されました。 ・在日外国籍の子どもへの緊急食品支援の実施、寒川ひとり親世帯に対し緊急支援実施。支援のあり方について社協担当者と懇談。 ・パルシステム神奈川ゆめコープより、ほうじ茶（茶葉）220本、おはぎ1024個和風だし46本の提供があり、シングルマザー支援や子ども食堂などで活用してもらいました。 ・フードバンク横浜が企業より受け取った冷凍餃子50,000個を、当法人会員など支援団体に配布するコーディネートを実施しました。 ・9月28日付けで、くらし安全防災局防災部災害対策課と寄贈品に関する合意書を締結し、備蓄品の譲渡に関する協力体制ができました。10月に防災備蓄品の缶パン2,470食、アルファ米200食、クッキー140食、クラッカー140食、12月コンビーフ、3月アルファ米2500食を各地域フードバンクで活用できるようコーディネートを実施。 <p>◆ボランティア育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月5日23日、当法人活動会員に向け研修会を実施。合計33名参加。シングルマザー企画の子どもの広場の意味について、事例共有を実施し、
--	--

	<p>協力・理解を促しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人会員に K - Model の趣旨を説明し、自身の特技を支援活動に繋げていただく流れができました。かみしばいやが食品ロス削減の紙芝居作成、ギター講師が無料教室を実施、農業従事者が野菜提供のほかに食品配送実施、若者カフェにて空手享受など、さまざまな形でかかわっています。
<p>(3)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講演会などでの事例報告、協働部署とのつながりを通じ、子ども食堂や居場所を運営したい方からの相談が増え、K-Model にも協力していただく事例が3件ありました。また支援団体や他のフードバンクとの情報交換も盛んになり、確実に活動を通じ協力者が増え広がる流れができました。 フードバンク団体と、具体的に食品を通じた情報交換を行い、相互協力できる関係が構築されました。それぞれのフードバンクの活動内容や取扱う食品も踏まえて、餃子の配付を行い、県防災備蓄課より寄贈いただく備蓄品の引き取りについて当法人が窓口となり、有効活用できる流れができたことが成果です。